

学長のコラム

海外留学奨学生について

3月4日(日)に出発した海外留学奨学生20名が4月1日(日)に全員無事に帰国した。選考委員等への報告会(4/23)、「私の部屋でランチを」での報告(5/14)を行ったが、留学中もLINEで、繋がっていた私からも報告します。昨年、ベネッセとの検討、大学運営協議会での提案・決定(4月)、予算化、規則制定、広報、公募、奨学生選考、説明会を経て実施に至った。関係の皆様のご理解とご協力に感謝いたします。今回初めての実施ということで、3年生を優先的に選考した結果、3年生14名、2年生4名、1年生2名となった。学科別では、医学検査3名、看護7名、リハ10名(PT6名、OT0名、ST4名)であり、男女別では、女子14名、男子6名であった。4週間のホームステイであるが、米国ノーザンイリノイ大学内に設置された語学学校 ELS Language Centers での午前中50分x4コマの英語授業、病院訪問や学部見学と交流などの午後のアクティビティ、週末のシカゴトリップ、インドア・スカイダイビング体験やホストファミリーとの自由行動などで構成される。英語授業は、コミュニケーション重視で、親身になってくれる先生が多く、内容も濃い授業で、自分のレベルにあったクラスで、語彙力、文章力、コミュニケーション力がついたのに加えて、ホストファミリーや他国からの留学生との会話で「ヒアリング力がついた」という感想が多い。何よりも「事前にもっと英語を勉強すべきであった」という反省と「英語をもっと学びたい」という意思を強く持つことができた」という感想は得難いものである。その他の感想としては「ホームステイを通して、アメリカの文化に触れ、肌で感じる事ができた」。「様々な国の方々と関わることができ、価値観、考え方、文化、習慣の違いに触れることができた」。「病院訪問や看護学生との交流はこのプログラムの特徴で自費留学ではできない体験で病院施設、看護師養成課程、働き方なども学んだ」。「アクティビティが充実しており、イリノイ州の自然やシカゴの観光が楽しかった」。「ハグ文化が恋しいです！卒業旅行でアメリカに戻りたいです」。「みんなLINEやフェイスブックで今も繋がってくれているので幸せです」。「良い経験ができたのでこのプログラムと奨学金に感謝です」。さらに、極め付きは「1か月でこんなに沢山の『ありがとう』を伝えたのは初めて、帰国後も日本の家族、友人、先生方の援助ひとつ一つにしっかり感謝の気持ちを伝えようと思った」。などと生き方そのものを変える効果を物語る感想もある。

なお、看護以外の分野の病院や学部訪問・学生交流があるとよかったとの意見に対しては、ベネッセと交渉中で、今年度はより改善した形での実施を計画している。

写真は、帰国直後の空港での写真であるが、長旅の疲れを見せない顔の輝きに成長と若さの素晴らしさを感じる。



ピア・サポーター&プチ・サポーター養成講座開催

4月3日(火)に養成講座を開催し、プチ・サポーター14名、ピア・サポーター74名が参加しました。「新入生オリエンテーショングループワーク(4/6実施済)」におけるファシリテーターとしての活動を念頭に、役割や当日の助言内容等について確認後、新入生役、ピア・サポ役、スーパーバイザー役(傍観者)を想定したロールプレイを行いました。最後に、高濱センター長から平成30年度のサポーター委嘱状が手渡され、サポーターたちは今後の活動への意識を高めていました。(文責：学生相談・修学サポートセンター)



成績優秀者表彰式

4月13日(金)に平成29年度成績優秀者の表彰式を行いました。特に成績優秀であった学生21名(医学検査学科6名、看護学科6名、リハビリテーション学科9名)に対し、崎元学長より表彰状と奨励金が授与されました。また、今後はより一層“人間力”に磨きをかけ、将来の医療人としてのスキルを身に付けてもらいたいと激励の言葉が贈られました。表彰されたみなさん、おめでとうございます！(文責：学務課長 平川文丈)



綱引き

4月27日(金)に看護セミナーIの「チームワーク演習」で「綱引き」が行われ、看護学科1年生全員と教職員2チーム計16チームで対戦しました。今回、学生たちは前もって作戦会議を練り、チームで士気を高めて本番に臨みました。当日はどのチームもメンバー同士、心と体を精一杯動かし協力しあい、大いに盛り上がりました。学生の感想として「協力する中でお互いを思いやる心が垣間見られた」「実践で得た気づきをみんなで次の試合に活かすことができ、振り返りの大切さを学んだ」等があり、将来のチーム連携につながる学びができていたようです。(文責：看護学科 講師 井上加奈子)



5月・6月の主な行事予定

5/12(土)	看護学科3年次保護者会
5/15(火)	開学記念日
5/17(木)	学友会総会
5/18(金)	新任教員によるお披露目講演会
5/30(水)	银杏学園 理事会・評議員会
6/1(金)	コンケン大学交換研修生受入れ(～14日)
6/2(土)	リハ(ST)就職説明会・実習指導者会議
6/15(金)	進路指導教員対象進学説明会
6/16(土)	学友会主催 球技大会

杏友会 歓送迎会

4月13日(金)KKRホテル熊本において、杏友会歓送迎会を開催しました。退職者3名と新任者21名を含む計139名の皆様にご出席いただき、崎元理事長・学長より昨年度の杏友会退会者へ記念品が授与されました。今年度新任の方々には全員ステージにご登壇いただき、代表として医学検査学科川口教授から今後の活躍を誓うお言葉を頂戴しました。ご出席の皆さまのご協力により、いつも増して賑やかな会となりました。
(文責：平成30年度杏友会 幹事)



看護学科4年 保護者会

4月21日(土)、本学にて学部4年生を対象とした保護者会を開催しました。

その主たる目的は、国家試験合格、就職内定を獲得することや、学外実習をより有意義なものにするために、学生本人、保護者の皆さま、大学教職員の意思疎通を強化し、今後の学生生活を充実させる覚悟で臨むためのスタートの日にすることです。



当日は、崎元学長による大学の概要説明、各学科・専攻の分科会、担当教員との個別面談などが行われ、活発な意見交換がなされました。

週末にもかかわらず、ご参加いただきありがとうございます。
(文責：就職支援課)

看護学科実習認定式

4月2日(月)平成30年度の臨地実習認定書授与式に臨んだ新3年生は109名でした。崎元学長から一人ひとり手渡しされるものが臨地実習適格認定書です。医療を志す者として患者さんや利用者さんの前に立つことを了解しましょうという意味があります。さらに本学の理念である知識・技術のみではなく思慮・仁愛のある高い人間性を育む臨地実習に学生が邁進することを応援する思いが込められています。

(文責：看護学科 教授 藤野みづ子)



リレー・フォー・ライフに参加して

子宮頸がん検診の啓発活動の一環として、南部先生と亀山先生が、医学検査学科4年生の先輩方を対象に、子宮頸がんについての勉強会をされています。私も、その勉強会に参加させていただき、子宮頸がんについて強い興味を覚え、去る5月12日(土)、白川公園で開催された「リレー・フォー・ライフ」というイベントに、前述の先輩方および南部SG(3年生および4年生)の合計21名で参加しました。

この「リレー・フォー・ライフ」とは、がんサバイバー(患者)、ケアギバー(家族、遺族、支援者)を支援し、地域社会全体でがんに向き合い、がん征圧を目指すチャリティ活動です。元々、1985年、アメリカの外科医が、「がん患者は24時間闘っている」というメッセージを掲げて24時間のマラソンをして寄付を募ったことが、このイベントの始まりで、現在では、全米約5000カ所、世界20カ国で開催されており、サバイバー、ケアギバーと一緒に24時間のウォーキングを行います。

今回、参加して、実際にがん患者さんのお話を聞く機会があり、がん宣告されたとき何が頭に浮かんだのか、いまどのように生きたいと考えていらっしゃるのか、それぞれの考えを直に聞くことができ、強い感銘を受けました。今回の貴重な経験を生かして、更に勉学や啓発活動に努めていきたいと思います。

(文責：医学検査学科3年 一身百香 上内初音)



学長裁量経費成果報告会

4月12日(木)に2207M講義室にて成果報告会が開催されました。報告会に先駆けて、学内研究助成・研究成果報告会ポスター賞の授賞式もありました。報告会では9プログラムが発表され、有意義な報告会となりました。(文責：企画課)



私の秘話ヒストリー

今回はリハビリテーション学科の山野克明教授に投稿していただきました。

かれこれ40年以上、赤いヘルメットを追いかけしています。子どものころ、父が行ったあの場所で、山本浩二が、衣笠が、江夏が、打って投げて、勝って、みんな大騒ぎで・・・。

最初の就職先が球場から徒歩5分の場所にあったので、暇な時はときどき見に行ったものです。1991年の日本シリーズ第5戦はネット裏(2階でしたが・・・)で声を枯らしました。しかし、その後は第二の暗黒時代でして・・・、いつ行ってもガラガラで、汚いし、ボカスカ打たれるわ、周りで酔っ払いは暴れるわ、いい選手はFAだよその球団に行っちゃうしわで・・・。そういう時こそ、気合いを入れて応援するのです。

今はテレビだけでの応援ですが、いいものですね。球場はきれいになったし、お客さんもたくさん入ってマナーもいいようだし、何より強いので・・・。先日、面影だけが残る市民球場跡を眺めながらしみりしていました。

広島東洋カープ・・・、これからも追い続けます。